

地域貢献支援事業

「地域貢献支援事業」は鳥取大学が、地域の課題解決のために、地域社会との連携を築き、両者の相互相乗的な活性化を図ることを目指して実施している事業です。



▲本町が誇る妻木晩田遺跡公園。若者の目にはどう映る?

今回から、大山町の各課と鳥取大学との「地域貢献支援事業」などについてシリーズで紹介します。

このたびは、大山の観光振興を取り組む観光商工課6次産業推進室が、鳥取大学と進める連携事業についてお伝えします。

若者に大山をもっと知ってもらい、もっと楽しんでもらうために!

大山北麓エリアに若者を呼び込むため、何が必要なのか官民協働して取り組んでいくためのきっかけづくりをすることや、現状の問題点や需要に即した改善点を明らかにすることが求められています。

そこで本町は、今年度から鳥取大学地域学部の光多長温特任教授とともに、若者に大山をもっと楽しんでもらうために「大山北麓エリアにおける体験型・交流型・滞在型ツアー

ズムの推進」をテーマとした連携事業を進めることになりました。

若者の目線で体験!

モニターツアー

まず現状を知るために、最初の取り組みとして8月7、8日に一泊二日のモニターツアーを行いました。ツアーは鳥取大学の学生6人と先生2人が参加しました。学生は県外出身者が多く、大山にとって新鮮な目で見てもらえるツアー構成になりました。

初日は体験型と学習型の二班に分かれ、体験型は「乗馬」「ブルーベリーの摘み取り」「ブナの森ウォーク」を、学習型の班は「妻木晩田遺跡公園」「大山自然歴史館」「大山寺阿弥陀堂」で見学や座禅体験をしました。

二日目は二班合同で、登山ガイドと一緒に真夏の大山頂上を目指しました。



▲モニターツアーの出発を前に打ち合わせ中の学生たち

若者をターゲットに
大山をリメイク

今後は、体験したモニターツアーを参考にした、これからのツアープログラムを検証や、観光客への聞き取り調査なども行います。これらをもとに、本町が抱えるツーリズムの課題や問題点、解決策などについてワークショップを重ねていきます。

そして来年3月をめどに、鳥取大学と連携した取り組みについて報告書をまとめいきます。